

かりや夢ファンド補助金公開審査会について

1 目的

市民からの提案を聞き、質問などを含めたコミュニケーションを行うことで、今後の刈谷のまちづくりに向けた知恵の交換や共感を育むとともに、提案事業の審査を行います。

2 開催日時・場所

(1) 日時 令和8年1月24日(土) 12時30分～16時45分

(2) 場所 審査会場：刈谷市民ボランティア活動センター

審議会場：刈谷市社会教育センター301研修室

3 申請団体

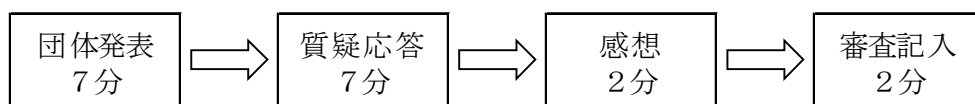
(1) まちづくり活動支援事業補助金：5団体

- ・重原歴史を学ぶ会
- ・刈谷発達仲間の会
- ・刈谷防災ボランティア
- ・特定非営利活動法人ぷらっとほーむ
- ・富士見町自主防災会

(2) NPO法人設立支援事業補助金：0団体

4 提案者によるプレゼンテーションと質疑応答・感想

(1) 事業ごとに、以下の流れで審査を行います。



(2) 事業毎に、最初に質問する担当と感想を述べる担当を、予め決定します。2つ目以降の質問は、順番を決めませんので積極的をお願いします。

質問する際は、時間配分や内容のバランスに配慮をお願いします。普段の活動内容等団体自体を問う質問よりも、事業内容についての質問を優先してください。

感想を述べるのは、基本的には1人とし、提案を聞いてよかったところ、共感

したところ、改善してほしいところ、さらにステップアップするためのポイントなど、団体の今後の活動が活性化するような応援メッセージをお願いします。

(3) 質疑応答終了後、2分間で採点をお願いします。各提案の良かった部分・応援したい部分・改善部分などのコメントについても、審査シートに積極的にご記入ください。なお、ご記入いただいたコメントは、無記名で取りまとめ、団体宛てに審査結果と併せて送付します。また、審査シートは点数集計のため、全審査終了後に事務局が回収します。

(4) 本部会で出た意見を取りまとめ、その内容を踏まえたプレゼンテーションをするよう団体に依頼します。

(5) 1月17日(土)から1月23日(金)に、刈谷市民交流センター1階ロビーにて、提案団体の活動概要や提案内容を紹介できる場所を設置します。そちらも是非ご参考ください。

5 審査方法

(1) 審査は、公開審査によって行い、書面やプレゼンテーションを通して総合的に評価します。

(2) 審査員は、夢ファン্ড部会員の皆様に務めていただきます。なお、審査委員長及び議事進行は熊澤部会長をお願いします。

(3) 事業ごとに審査員の合計得点を平均し、それに会場点を加算して、提案事業の採択を決定します。

(4) 審議により、事業の企画・運営・申請額等に再検討を必要とすると判断したものについては、「条件付」とします。

6 会場投票

(1) 点数の計算方法

会場投票は、以下の計算方法で算出します。

$$\text{会場点} = 5 \div \text{投票総数} \times \text{得票数} \quad (\text{小数点以下第3位四捨五入})$$

(2) 投票の方法

ア 受付時に投票用紙を配付します。

イ 参加者は、各団体による提案内容やプレゼンテーションに基づき、優れてい

ると思われる事業を2つ選択します。

- ウ 全ての公開プレゼンテーションが終了後、投票用紙を回収し、集計します。
- エ 同一事業を2つ記入した場合、1つしか記入していない場合、3つ以上記入した場合は、いずれも無効とします。

7 審議

- (1) 総合得点が高いものは、認定を前提とし、確認作業を中心に行います。
- (2) 基準点を満たしていない事業は、その理由を明確にして不採択とします。
- (3) 補助金交付の当落線上にある事業は、「総合的な評価」「審査員による得点の高低が大きい項目」等についてその判断理由を確認しながら、採点の内容を再確認します。
- (4) 各事業について、条件を付すべき内容がある場合は、指摘のポイントを整理します。

8 結果発表

- (1) 事務局から集計結果を発表します。ただし、今回の審査会はあくまでも補助金交付の認定団体を決定するものであるため、認定団体は改めて4月以降に交付申請をすることを伝えます。
- (2) 審議で「条件付」とされたものについては、結果発表時にその旨を伝えます。
- (3) 審査委員長から全体の講評を行います。
- (4) 審査結果は、すべての提案事業について、①得点結果、②条件付の場合は条件の内容、③コメント等を文書で記載し、後日郵送にて通知します。
- (5) 条件付の事業については、後日期限を定めフォローアップ調査を行います。条件を満たしているか否かについて、審査委員長と協議を行い、第3回推進委員会（3月）にて議題として採択の可否を判断していただきます。
- (6) 審査結果は、採択された事業について、市ホームページにて公開します。（公開範囲：団体名、事業名、事業概要、得点）
- (7) 個別に情報公開を請求された場合には、審査員を匿名にして審査集計票（審査項目毎／審査委員毎の得点を記載）を公開します。

9 公開審査会プログラム

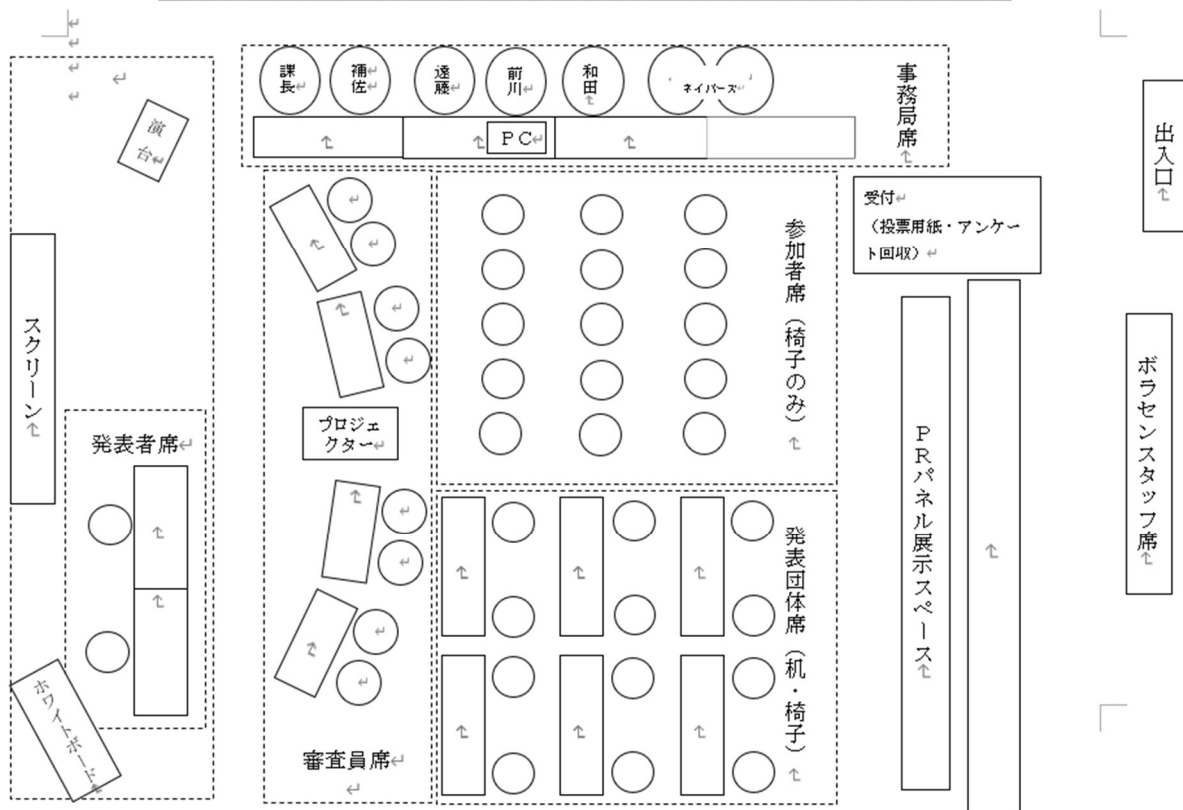
12時30分～16時45分（部会員は12:00～）

時 間		内 容
12:00	10分	審査員集合
12:10	20分	受付・審査員説明
12:30	15分	開会・概要説明
12:45	20分	プレゼン 1
13:05	20分	プレゼン 2
13:25	20分	プレゼン 3
13:45	10分	休憩
13:55	20分	プレゼン 4
14:15	20分	プレゼン 5
14:35	20分	集計（審査員は休憩）
14:55	90分	審議
16:25	15分	結果発表・講評
16:40	5分	閉会
16:45	-	終了

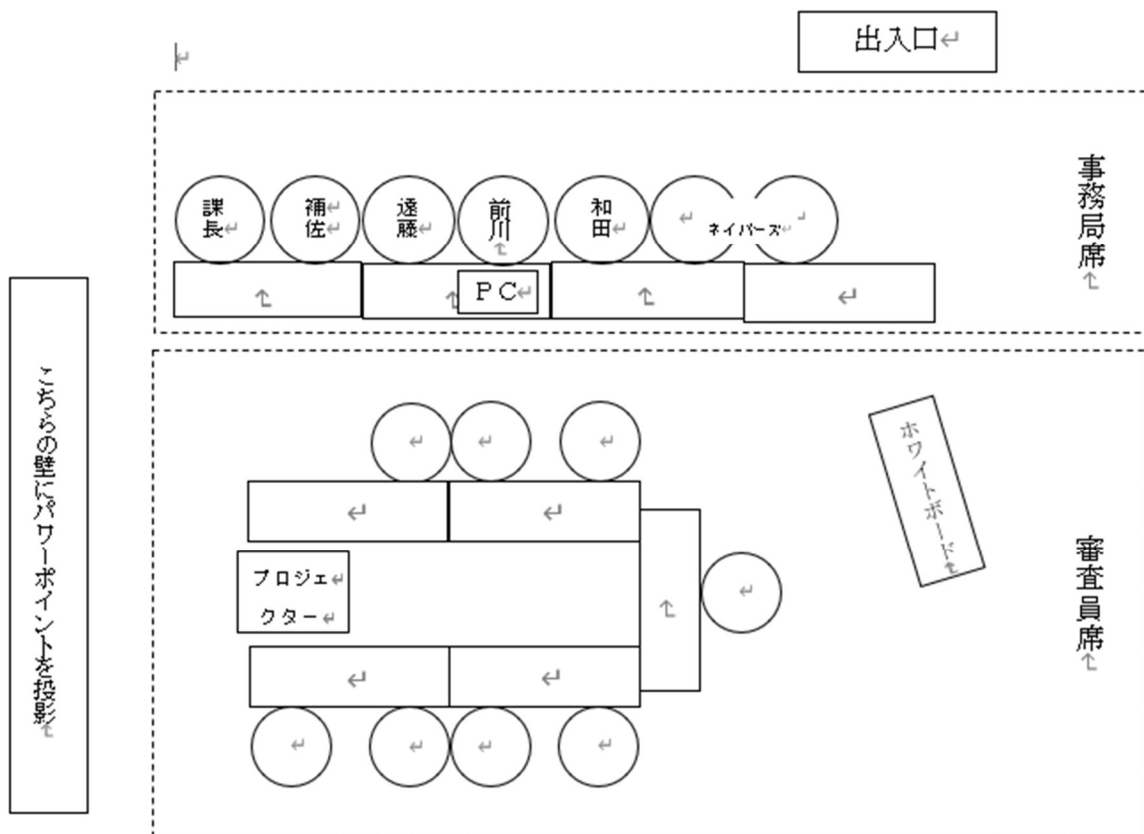
刈谷市社会教育センター
301研修室にお集まり
 ください。

10 会場レイアウト

かりや夢ファンド公開審査会 審査会場（市民ボランティア活動センター）



かりや夢ファンド公開審査会 審議室（社会教育センター301研修室）



まちづくり活動支援事業補助金 審査シート

提案団体名 _____

審査員氏名 _____

申請回数
□

提案順
□

提案事業名 _____

審査の視点	審査のポイント	審査点数	メモ・質疑事項
①主体性・協働性	課題を自分ごとと捉え、他の主体に依存することなく、自分たちで行おうとしている。 さまざまな市民や団体が参加し、つながる機会をつくっている。	5・4・3・2・1	
②公益性	まちの課題や市民のニーズに対応し、多くの市民の利益に貢献することができる。 事業を通して人々の共感を得て、意識を向上させていくことができる。	5・4・3・2・1	
③独創性・先駆性	新しい課題やテーマ、視点からの取り組みである。 事業の進め方や手法に工夫があり、団体の特性が活かされている。	5・4・3・2・1	
④実現性	事業計画やスケジュール、収支計画が具体的・妥当である。 団体としての組織力があり、事業を効果的に行うことができる。	5・4・3・2・1	
⑤発展・継続性	将来的な事業の発展性を検討している。 今後も刈谷で継続した取り組みを行おうとしている。	5・4・3・2・1	
合計点 (25点満点)			
総合評価・コメント			

※審査は1～5の5段階評価で採点します。下記を参考に審査点数欄の点数に丸をつけてください。

5：特に優れている／想定以上の効果が期待できる

4：優れている／かなり効果が期待できる

3：平均的・普通である／一定の効果が期待できる

2：もう少し努力が必要である／少しは効果が期待できる

1：努力が必要である／あまり効果が期待できない

まちづくり活動支援事業補助金

【申請額5万円超20万円以下】

No.	団体名 (団体設立年月日)	代表者名	夢ファンド申請 事業名	回数	申請するに至った想い	事業目的	事業概要	事業費 (円)	補助申請額 (円)
1	重原 歴史を 学ぶ会 (R6.2)	鈴木 勉	重原歴史本 を通して地 元愛を育む	1	自治会活動の衰退 に対し、重原地区 の持つ歴史的魅力 を知ってもらい、 シビックプライド (地元愛)を高め たい。	重原地区も自治会活動が衰退傾向にある。移住 して来られた方も多いため、今後を考えると特 に子ども達に地元重原を知ってもらい、好きに なってもらい、地元の活動に積極的になって欲 しい。自治会活動が活発になると地区内のコ ミュニケーションもよくなり、大災害時の防災 力向上にも繋がる。	重原地区に関わる歴史本を作成、発行する。内容は小学生低学年向け から専門的な物を含む。500冊作成し、350冊は一冊800円で販売、150 冊程は様々な所へ寄贈する予定。完成後は本を活用して重原地区の小 学生を対象に読み聞かせをしたり、一般の人向けに読んだうえでの質 問会や意見交換会を開催する。また重原の名所巡りのウォークラリー も計画している。会場は、重原市民館。周知の仕方は、回覧板、広報 版、重原ホームページ、子ども会の協力を考えている。	550,000	200,000
2	刈谷発達仲間 の会 (R6.3)	近藤 茜	大人の発達 障がい者支 援 落語家 【柳家花緑】 師匠の講演 落語会	2	偶数月に開催してい る学びの会の参加者 は、若い年代の方も 増えてきた。世代間 を超えて障がいの特 性についての理解を 深め、日々を健康に 幸福に暮らせる” 絆”の輪を広げたい。	発達障がいとは治療で改善は見られても完治は難 しい病気で、人間関係の困難さや“こだわり” の強さが特徴の症状や、読み書きや計算の学習 が困難な症状もある。「障がいへの理解を深め る」をテーマに個性差を受け入れ、一緒になっ て考え、誰もが生き易く住み易いと感じる町づ くりにつなげ、『一人で抱え込まずに本音で話 し合える場所』をつくりたい。	令和8(2026)年9月27日日曜 午後2時～4時に、刈谷市産業振興センター・あい おいホール (700席)にて開催する。障がいの特性の影響で困ったり辛さを感じて いる人・子の障がいに悩み、子の成人後の対応に心配を抱く人・障がい者を理解 し、一緒に暮らせる町づくりを目指す市民を対象に、40歳を過ぎてから発達障がいの 診断を受けた花緑師匠による、幼児期からの辛さや悩みを抱えながらも社会で活 躍する有様を語る講演落語を通し、質疑応答を交えながら、『笑いを誘い、参加 者の皆さんへ勇気を与え、心の悩みをスッキリ』させる。 今回はPR開始が遅れたので、早めのPRを心掛ける。また、チケット販売方法も電子 方式のみを改め、ご年配の方のアドバイスを参考に、窓口取扱を併用する事で改善 を図る。	667,500	200,000
3	刈谷防災ボラ ンティア (H13.5)	金丸 光邦	防災福祉 フェア～地 域の防災力 を高めるた めに～	1	国民だれひとり漏ら すことのできない共 通課題である防災に 対して、これまでの 活動で得た多くのノ ウハウや人脈、組織 間のつながり等の資 源に横串を通すこと で、相乗効果を生み 出したい。	体験型防災イベントを開催し、市民への防災・ 減災・備災の啓発啓蒙を通して、地域住民の防 災意識を高めることに寄与する。また、体験 ブースの実施内容は手順書にまとめ、知識・ス キルの継承・後継者の育成につなげる。	刈谷市総合文化センターにおいて、一般市民を対象に防災イベントを開催する。 内容は、防災講演会(例：南海トラフ巨大地震への備え、講師：名古屋大学名誉教 授福和伸夫氏等)を基軸に、体験ブースを多数設置し、参加体験型のイベントとし る。具体的には、家具の固定、ガラス飛散防止、災害時トイレ、非常持出品、備 蓄、身近なものを使った防災対策、応急手当、ロープワーク、搬送訓練、感染防止 対策、非常食、炊飯袋、防災ゲーム、ボランティア活動写真展示など、同様のイ ベントから一歩踏み込んだアクティビティを盛り込む。 なお、開催時期は会場の確保も踏まえ令和8年12月から令和9年1月頃で調整 中。	308,200	200,000
4	特定非営利活 動法人ぷらっ とほーむ (H30.6)	藤川 直予	お仕事見 学、体験プ ロジェクト	1	若者の居場所活動 をする中で、若者 からの相談件数が 年々増加してい る。柔軟な働き方 や生き方に触れる ことで、若者自身 の生き方を振り返 るきっかけとし てほしい。	不登校、引きこもりの当事者、家族は「ちゃん と会社で働けること」を自立の目標としがちで あるが、社会経験の少ない当事者にとって働く ことのハードルは高いため、顔の見える関係性 を作り、みんなで街を盛り上げている東栄町の 皆さんの柔軟な働き方、生活に触れることで、 こうあるべき、という考え方を転換し自分らし い働き方、生き方を発見していくきっかけとす る。	7月末から8月上旬(気候により変更の可能性あり)に、刈谷市内法人活動拠点各所 や東栄町各種事業所にて開催。対象者は、ぷらっとほーむ・LITALICOワークス刈谷 の利用者及びその家族(ぼかぼかかい等)と、お仕事見学や体験に興味のある一般 市民。内容は、4日間のお仕事体験とお仕事見学会1日。事前に参加するにあたって の個別の目標、問題意識の確認をする(就労準備講座、事前説明会などの開催)。 お仕事体験では、東栄町の宿泊施設で4日間暮らしながら、東栄町の事業所で職場 体験を予定。日常生活の支援や事業所との連携、就労アセスメント等のコーデ ィネットを、「言の葉工房」白井氏に依頼。お仕事見学では、東栄町の事業所各所の 見学、ミニ体験(作物の収穫や選別など)を予定。終了後は、当初の目的の達成の 様子を振り返る。体験参加者は就労アセスメントを受け、今後の就職に向けての材 料とする。	152,000	101,000
5	富士見町自主 防災会 (H24.5)	鈴木 勝巳	みんなで描 こう！つな がる防災・ひ ろがる地域力 ～防災倉庫 を地域をつ なぐシンボル へ～	1	防災意識や地域コ ミュニティの希薄化 といった地域課題に 対して、殺風景な防 災倉庫を親しみやす く魅力ある「地域の シンボル」とするこ とで、日常的に防災 を意識するきっかけ を作りたい。	公園に設置された防災倉庫を、住民の意見を反映したデ ザインでペイントし、親しみやすいシンボルとして整備 することにより、日常的に目に留まりやすくなるととも に、防災フェスティバルなどの啓発活動の象徴としても 活用し、防災意識や地域力の低さという課題に対して、 地域住民が防災力や地域力の大切さに意識を向けられる ことをねらう。さらに、防災倉庫を中心に世代を超えた 交流を促進し、住民同士のつながりを育むことで、災害 時に助け合える関係性を築き、安心して暮らせる地域コ ミュニティの醸成を目的とする。	五軒屋公園に設置された防災倉庫を地域住民の意見を反映したデザインでペイントする。5月の総会で事業 内容の最終承認を得てから、6月に関係者と調整をおこない、7月に元刈谷地区全域への回覧板を通じて地 域住民からデザインを募集する。防災倉庫全体は大人が、複数の小さなスペースは子どもたちが担当する ことで、世代を超えた協働を促進し、特に子育て世代が気軽に防災に関われるよう工夫する。デザインの 採用後、9月～12月の期間で、見積りから施工・完成までを専門業者と進めていく予定。防災倉庫は、単 なる防災機材の収納施設ではなく、「防災」というメッセージを力強く発信する地域のシンボルとするた め、色彩豊かで親しみやすく、景観と調和したデザインを採用する。また、地域住民の目に継続的に留ま り、防災に関する会話のきっかけや学びの入口となるよう、子どもたちが担当する小さなスペースのデザ インは定期的に変更し(3年程度でデザイン募集・選考→再ペイントを繰り返しておこなう)、地域と防災をつ なぎとめることができるシンボルとして育てていく。さらに、防災倉庫を中心に、毎年開催している防災 フェスティバルを3月に実施する。地域住民によるデザインの紹介や、防災倉庫内部の探検会、親子で楽し める防災ゲームなどを通じて交流と学びの場を広げる。継続的な取り組みによって地域のつながりを深 め、災害に強いまちづくりを地域の皆さんと共に進めていく。	301,000	200,000

NPO法人設立支援事業補助金

申請なし